



インフォ・マート

Info Mart

(自主公演のチケットのお求め・お問合せはこちらへ) 04-2998-7777 | <https://www.muse-tokorozawa.or.jp>



vol. 128

人間国宝・歌舞伎俳優

坂東玉三郎

お話と素踊り

▼
P1

2005年シヨパン国際コンクール優勝

ラファウ・ブレハッチ「ピアノ」

▼
P3

ハーモニカ四重奏団「スヴェング」

▼
P5



人間国宝・歌舞伎俳優

坂東玉三郎

お話と素踊り



100%坂東玉三郎の舞台

『天守物語』や『鶯娘』などの優れた舞台で絶賛を浴び、アンジェイ・ワイタやヨーヨー・マとのコラボレーションなど歌舞伎の枠を超えた活動でも高い評価を得る坂東玉三郎。今回の所沢のミュージズの舞台では、トークコーナーと素踊りでの魅力をたっぷりご堪能いただけます。

トークコーナーでは、奥深い歌舞伎の魅力や立女形の真髓についてはもちろんのこと、普段は知ることのできない人間国宝のプライベートについても興味深いお話が聞けるはず。ご来場いただくお客様から事前にいただいたご質問に答える「質問コーナー」では、様々なご質問を通じて坂東玉三郎の意外な一面や人間的魅力にあふれるエピソードも聞くことができます。

そして後半は歌舞伎俳優としては大変珍しく貴重な「素踊り」です。化粧もせず特別な衣装もつけずシンプルな舞台で地唄舞「雪」を披露します。簡素な出で立ち、簡素な舞台だからこそ、舞踊の力量が一目瞭然。その身ひとつで情景や物語、心情を観客に届けなくてはなりません。出家して尼になった女性が、雪の降る夜に芸妓だった若き日を想うという艶物で、希代の舞踊家、人間国宝による美しい舞を存分に堪能ください。

五代目坂東玉三郎の歩んだ道

重要無形文化財保持者（人間国宝）として、聴衆を魅了し続ける坂東玉三郎の歩んだ輝かしい歩みを振り返ってみましょう。1957年に東横ホール「寺子屋」の小太郎で「坂東喜の字」を名のり初舞台、64年に十四代目の守田勘弥の養子となり、歌舞伎座「心中刃は水の朝日」のおたまほかで五代目坂東玉三郎を襲名しました。泉鏡花の作品に共鳴し舞台化に取り組み「天守物語」など数々の優れた舞台を創りあげるほか、オペラ界の最高峰メトロポリタン歌劇場の開場100周年を記念したガラ公演に招かれ『鶯娘』を踊って絶賛を浴びました。そのほかにもシエイクスピアの『マクベス』のマクベス夫人、プリテンの『カリーネ・リヴァー』の出演、モリス・ベジャール振付

2012年に重要無形文化財保持者《人間国宝》に認定、またフランス芸術文化勲章最高章「コマンドゥール」を受章など世界から高い評価を得る坂東玉三郎。立女形の真髓やプライベートについて語るトークコーナーと衣装や化粧をつけない「素踊り」で、希代の歌舞伎俳優の溢れるような魅力をご堪能ください。

による『ベジャール・バレエ・ガラ』の出演、現代屈指のチェロ奏者ヨーヨー・マとの共演など、歌舞伎の枠組みを超えた超一流アーティストと多彩なコラボレーションでも世界の注目と称賛を集めています。

2012年には歌舞伎女方として5人目となる重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定されると、2013年にはフランス政府から芸術文化勲章の最高章である「コマンドゥール章」を、翌2014年には紫綬褒章を授与されるなど国内外からその優れた業績が高く評価されています。さらに2019年には世界文化賞を受賞し、文化功労者に選出されるなど現代を代表する芸術家・歌舞伎俳優として輝きを放ち続けています。今回の特別公演でもその輝くような魅力と素顔を感じていただくことができます。

人間国宝 歌舞伎俳優

坂東玉三郎 お話と素踊り

2024年2月19日(月) 14:15 開場 15:00 開演

アークホール

料金◆全席指定 S席¥7,500 A席¥6,000 B席¥4,500

◆メンバーズ特別 S席¥6,700 A席¥5,300 B席¥4,000

※未就学児の入場はご遠慮ください。

好評発売中



玉三郎さんへの質問募集

坂東玉三郎さんがあなたの質問にお答えします！（締め切り：2月12日）

質問フォーム：<https://forms.gle/g4WaPnVDMJPuUqbe8>

メール：tamasaburo-info@sunrisetokyo.com

件名◆玉三郎さんへの質問

内容◆①ペンネーム ②年齢 ③住所(市区町村まで)

④玉三郎さんへの質問



撮影：篠山紀信



アラブ首長国連邦アブダビを旅する坂東玉三郎

撮影：篠山紀信



当たり役のひとつで女方の中でも人気の高い『助六由縁江戸桜』より揚巻



世界から注目される契機となった『鶯娘』メトロポリタン劇場(1983年)



喜の字を襲名し挨拶まわりを終えて笑顔で(1957年)



『寺子屋』の小太郎で初舞台を踏んだ(1957年)



雑誌をめくる(5歳の頃)

2005年シヨパン国際コンクール優勝

マズルカ賞・コンチエルト賞・ソナタ賞・聴衆賞を同時受賞

ラファウ・ブレハツチ

Rafał Blechacz in Tokorozawa [ピアノ]



シヨパン・コンクール優勝から18年、現代最高のリリシスト
 がついにミューズ初登場を果たす！ほんの数小節聴いただけ
 だけで感嘆せずにはいられない奇跡のタッチとみずみずしい
 抒情性。深化し続ける孤高のピアノリズムに迫る。

©Marco Borggreve

シヨパン・コンクールの衝撃

1985年にポーランドの小さな町で生をうけたブレハツチ。ポーランドと言えど何といつてもシヨパンを生んだ国であり、近代をみても20世紀最大のピアニスト、パデレフスキ(1860年生まれ)、アルトゥール・ルービンシュタイン(1887年生まれ)、ツィメルマン(1956年生まれ)など名だたる名ピアニストを輩出してきた。ブレハツチはそんなポーランド・ピアニズムの系譜に連なる存在であり、シヨパンの音楽の魂を最も率直に伝えることができる「現代最高のシヨパン弾き」と言えるだろう。

ブレハツチが最初に世界の注目を集めたのは、2003年に開催された浜松国際ピアノ・コンクール最高位(1位なしの2位)であった。その頃からブレハツチの水際立ったタッチの美しさは高い評価を獲得していたが、2年後、2005年のシヨパンコンクールではその才能が大輪の花を咲かせることになる。300人を超える過去最多の実力派コンテストを押しつけて見事優勝を果たした。このステージでのしたたるような美音と抒情、テクニックをひけらかすことのない成熟した情熱はいまや語り草。一気に世界のピアノ・ファンを虜にしてしまった。優勝の栄誉に加え、マズルカ賞・コンチエルト賞・ソナタ賞・聴衆賞を総なめにしてしまうほどの強烈なインパクトを聴衆と審査員に残した。

ピアノ界のノーベル賞「ギルモア賞」

そんな才能をレコード業界も放つてはおかない。2006年には世界最大のクラシック音楽レーベル「ドイツグラモフォン」と専属契約を結んだ。これは100年を超える名門レーベルの長い歴史の中でも、ポーランド人としてはツィメルマンに次ぐ2人目という快挙だった。これまでに「シヨパン・

画を描き出してくるだろう。静かに、だが確実に、巨匠への道を歩み続けるブレハツチの詩情に耳を傾けたい。

聴衆を魅了する奇跡のタッチ

前奏曲集「ウィーン古典派ソナタ」「シヨパン・ピアノ協奏曲」「シヨパン・ポロネーズ集」「パツハリサイタル」などをリリースし、「エコー・クラシック賞」「ドイツシャルプラッテン賞」「ディアパゾン賞」など国際的に名譽あるレコード賞を受賞し、評論家とファンの双方から称賛を集めている。さらに2014年には「ピアノ界のノーベル賞」とも称され最も榮譽のある「ギルモア賞」を受賞する。このギルモア賞はウン千万円という賞金もさることながら、覆面調査員が長期にわたって演奏活動を調査し「将来、音楽界に真にインパクトを与えるであろうピアニスト」を選定し4年に一度表彰するもので、ブレハツチがコンクール後もいかに真摯で充実した音楽活動を継続してきたかを証明することになった。

2005年のシヨパン・コンクールで世界に衝撃を与えたブレハツチの音楽性は、18年経ったいまでもまったく揺らぐこ

となくますます深化している。ピアノ・ファンなら、ほんの数小節聴いただけで「これほど美しいピアノの響きはあつたのだろうか!」と感嘆せずにはいられない、みずみずしい響きと粒立ちのよいタッチ。とりわけシヨパンの作品で聴かせる静かな抒情は、まるで親密なサロンでシヨパン自身が演奏しているような錯覚すらおぼえる。がむしゃらに鍵盤をたたき力強い音に頼る訳ではないのに、シヨパンの音楽の持つ高貴で決然とした表情や躍動感が見事にとらえられ、繊細なタッチでは祖国ポーランドを離れたシヨパンの希望と哀愁がストレートに胸に刺さる。

代名詞といえるシヨパンに加え今回のリサイタルで取り上げられるのが、モーツアルトの《トルコ行進曲付き》。従来の天真爛漫で華やかな作品像とは一線を画するアプローチが新鮮。かなり早めのテンポで色彩豊かにフレーズを紡ぎ、古典派作品の美しい様式感を際立たせる。さらにドビュッシーの《ベルガマスク組曲》では、ブレハツチの羽のように軽やかなタッチと無類のテクニックが真価を発揮し、鮮烈な音

ラファウ・ブレハツチ [ピアノ]

2024年2月17日(土) 13:15開場 14:00開演

アークホール

好評発売中

料金◆全席指定 S席¥4,300 A席¥3,500

◆メンバーズ特割 S席¥3,500 A席¥3,000

曲目◆

シヨパン：ノクターン ヘ短調 Op.55-1

：4つのマズルカ Op.6

：ポロネーズ 第7番 変イ長調 Op.61《幻想》

：ポロネーズ 第6番 変イ長調 Op.53《英雄》

ドビュッシー：《ベルガマスク組曲》

モーツアルト：ピアノ・ソナタ 第11番 変イ長調 K.331《トルコ行進曲付き》 ほか



※未就学児の入場はご遠慮ください。

※都合により曲目の一部が変更になる場合がございます。



©浜松国際ピアノコンクール



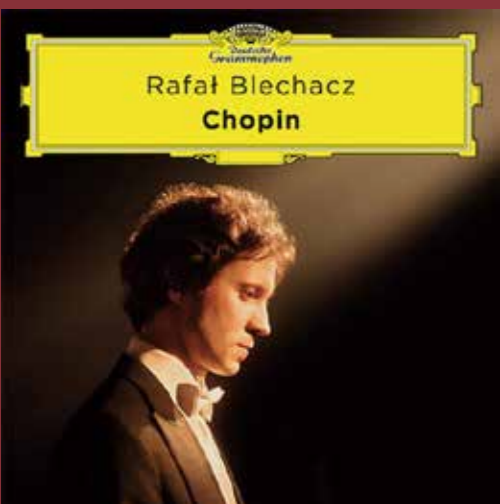
2005年のシヨパン・コンクールで優勝し世界に衝撃をあたらせた



優れた音響を誇るアムステルダム・コンセルトヘボウでのリサイタル (Facebookより)



2017年にオープンした最新鋭のハンブルクのエルブフィルハーモニー (Facebookより)



シヨパンのソナタを収録した最新版、現代最高のシヨパン弾きによる名演奏

シヨパン：ピアノ・ソナタ第2番・第3番 他 (品番：UCCG-4507)

超!個性派揃いのメンバーたち



ヨーコ・クハラ

<ハーモニカ、クロマチック&ダイアトニック・ハーモニカ>

名門シベリウス・アカデミーのフォーク部門におけるハーモニカ、即興演奏、バンド運営の教授で、通称「世界でただ1人のハーモニカ博士」。



エーロ・トゥルカ

<クロマチック&ダイアトニック・ハーモニカ>

ヨーコの弟子で、バンドの創始者。バンドのほとんどのレパートリーを作曲している。シンガーとしての腕前も相当なもので、モンゴルの咽歌までできる。



エーロ・グンドストルム

<クロマチック&ダイアトニック・ハーモニカ>

バンド内にエーロが2人いることからゲーロと呼ばれている。即興演奏が得意。マルチ楽器奏者でピアノの腕も天才的。熊のぬいぐるみのヒルパを連れて旅をしている。



パシ・レイノ

<ベース・ハーモニカ>

バンドの年長者。ステージ上ではほとんど顔が見えないが、ハーモニカの後ろではバンド最高の営業スマイルをしていると主張している。



熊のヒルパ

<バンドのマスコット/メンタルコーチ>

メス、永遠の10歳。ゲーロ(エーロ・グンドストルム)のたくさんのキスとハグでボロボロとなり、オリジナルの毛並み(茶色い部分)はほとんど残っていない。まるで洗濯機でがたん洗ったようになってしまっているが、本人はそんなひどいことはしていないという。時々ロビーに顔を出す。

スヴェング Sväng



森と湖とオーロラの国・フィンランドからやってきた
世界最強のハーモニカバンドが待望のミューズ初登場!

7年ぶりの来日となる今回のツアーは、郷愁を帯びたハーモニカの音色にぴったりの「赤とんぼ」、ジブリ作品などの日本ならではの名曲や、「フィンランドディア」「英雄ポロネーズ」といったクラシックの有名曲など、バラエティーに富んだ内容でお贈りする。

彼らのステージを一目見れば、これまでのハーモニカへのイメージが変わるだろう。

大小さまざまなハーモニカから奏でられる、ユーモア満点のステージをお楽しみに!

ハーモニカのイメージを覆す!

コンサートでは、曲によって音域や音質が異なるため、4人で6種類以上のハーモニカを巧みに使い分けて演奏している。なかでも、ヨーコが演奏するハーモニカは、ドイツのホーナ社で1950年代から開発され、1970年代に製造中止となり僅か数十年しか販売されなかった「幻のハーモニカ」と言われている。

吹き口が二段になっていて、吹き吸いしながらコードネームが書かれているボタンを押して演奏するのだそう。現在ではホーナ社でも修理・メンテナンスを出来る人がおらず、ヨーコが自ら楽屋で修理をしている。

幻のハーモニカ「ハーモニカ」

「ハーモニカ」と聞いて、何をイメージするだろう。子供のころに演奏した記憶、あるいはおしゃべりに奏でるブルースといったところだろうか。スヴェングは、この小さなハーモニカの楽器の可能性を最大限に引き出し、たった4人だけでシヨパンからタンゴ、ブルース、ジブリ作品まで、ありとあらゆる音楽を演奏してしまおう、まさにハーモニカのスペシャリスト集団なのである。見た目はちよつと(いや、大分?)ユニークだが、彼らをふざけたバンドと侮ってはいけない。確かな演奏技術と高音から低音まで様々な種類のハーモニカで極限まで表現力を追い求めた音楽は、一度体験したらやみつきになること間違いなし!

デタラメな発言がバンド名に!?

メンバーは、フィンランドの名門音楽大学シベリウス・アカデミーの教授であるヨーコとその卒業生を中心に結成された。「スヴェング」というバンド名は、実はデタラメな言語で、フィンランド語でもなければ何語でもない。実際にはスウェーデン語で「ターン」という意味があるらしいが、これは偶然の産物。

シベリウス・アカデミーで何人かの生徒をかかえていたヨーコが、ある日生徒たちのアンサンブルがあまりにひどい事に呆れて「これじゃスヴェング SWINGじゃなくて、スヴェ

ハーモニカのスペシャリスト集団

メンパーは、フィンランドの名門音楽大学シベリウス・アカデミーの教授であるヨーコとその卒業生を中心に結成された。「スヴェング」というバンド名は、実はデタラメな言語で、フィンランド語でもなければ何語でもない。実際にはスウェーデン語で「ターン」という意味があるらしいが、これは偶然の産物。

シベリウス・アカデミーで何人かの生徒をかかえていたヨーコが、ある日生徒たちのアンサンブルがあまりにひどい事に呆れて「これじゃスヴェング SWINGじゃなくて、スヴェ



楽屋番をする熊のヒルパ。日本ではファンが多く、時々ロビーに顔を出すとか。



巧みにハーモニカを操る4人の手には、金ぴかの時計やカラフルな指輪が光っている。



バンドのコンセプトは「下品な成り金趣味」(!?) お揃いのジュラルミンケースを持ち、全員スーツで決めている。



楽屋でハーモニカを修理するヨーコ。細かいパーツの一つ一つを手作業で調整している。



ヨーコが演奏する幻の楽器ハーモニカ。黒のコードボタンをおして演奏する。

ハーモニカ四重奏団
スヴェング Sväng

2024年 1月21日(日) 13:15開場 14:00開演
マーキーホール

料金 ◆全席指定 ¥3,800
◆メンバーズ特割 ¥3,000

曲目 ◆久石譲:ハウルの動く城
山田耕筰:赤とんぼ
ショパン:英雄ポロネーズ
シベリウス:フィンランドディア
ジョン・ウィリアムズ:ヘドウィグのテーマ
(ハリー・ポッターと賢者の石より) ほか

好評発売中

ステージレポート

Stage Report

8月11日
～10月14日

2023 8/11
(金・祝)

夏休み!とことろ探検ツアー

〈アークホール〉
三原麻里[オルガン]、阿部翠[オルガン]



10(木)

17(木)

24(木)

能楽ワークショップ

〈リハーサル室〉
講師/遠藤喜久(観世流能楽師)



12(土)

観て・聞いて・楽しむ 能楽プレ講座

〈キューブホール〉
出演/遠藤喜久(観世流能楽師)



26(土)

触れてみよう! 能楽の世界 能『船弁慶』

〈マーキーホール〉
出演/遠藤喜久(観世流能楽師) ほか



反田恭平 [ピアノ/指揮]

ジャパン・ナショナル・オーケストラ

〈アークホール〉
曲目/チャイコフスキー: ロココの主題による変奏曲イ長調 Op.33 (チェロ: 水野優也)、
モーツァルト: ピアノ協奏曲第15番 変ロ長調 K. 450 ほか



28(月)

山田和樹 [指揮]

ぱんだウインドオーケストラ × 東京混声合唱団

〈アークホール〉
出演/ぱんだウインドオーケストラ、東京混声合唱団、浜松青少年少女合唱団、きみつ少年少女合唱団
曲目/ジョン・ラター: Look at the world ~世界はたからもの、
デイヴィッド・ホルジンガー: 〈復活祭交響曲〉 ほか



9/16(土)

イ・ムジチ合奏団の《四季》

〈アークホール〉
曲目/パッヘルベル: カノンとジーク
モリコーネ: 映画『めぐり逢い』より『メインテーマ』
ヴィヴァルディ: ヴァイオリン協奏曲集『四季』 ほか



23(土・祝)

空飛ぶ音楽祭 2023

SKYE & FRIENDS ~小坂忠メモリアル~

〈アークホール〉
出演/ SKYE (鈴木茂 [g] 小原礼 [b] 林立夫 [d s]
松任谷正隆 [key])、Bread & Butter、尾崎亜美、南佳孝



灼熱のタランテッラ [民族音楽]

〈マーキーホール〉
出演/カンツォニエーレ・グレカ
ニコ・サレンティーノ
曲目/南イタリア伝統音楽 ほか



24(日)

ムラマツフルート Presents

フルートはじめて講座 (第2 練習室)



諏訪内晶子 [ヴァイオリン]

エフゲニ・ボジャノフ [ピアノ]

〈アークホール〉
曲目/ブラームス: ヴァイオリン・ソナタ 全曲



27(水)

エマニュエル・パユ [フルート]

アレッシオ・バックス [ピアノ]

〈アークホール〉
曲目/ベートーヴェン (パユ編): フルード・ソナタ ト長調 op.30-3 (原曲: ヴァイオリン・ソナタ第8番)、
クララ・シューマン: 3つのロマンス op.22 ほか



30(土)

ウルトラ6兄弟 THE LIVE

ウルトラマン編 ~小さな勇気と絆の力~

〈マーキーホール〉

10/5(木)

中村勘九郎 中村七之助

錦秋特別公演 2023

〈マーキーホール〉
演目/一. トークコーナー
二. 女伊達
三. 桑名浦乙姫浦島



8(日)

よしもとお笑いライブ in 所沢 2023

〈アークホール〉
出演/
中川家、佐久間一行、レイザーラモン、ギャロップ、すゑひろがりず、インディアンズ、男性ブランコ、オズワルド、コットン、ゆりやんレトリィバァ ほか



14(土)

人形浄瑠璃 文楽

〈マーキーホール〉
出演/
豊竹呂太夫 [太夫]
鶴澤清治 [三味線] (人間国宝)
桐竹勘十郎 [人形] (人間国宝) ほか
演目/『義経千本桜』『桂川連理柵』



写真撮影(市民カメラマン)/由井(8/11・23 SKYE・28) 中村(8/26 能楽) 滝島(8/26 JNO) 三平(9/16・30・10/14) 西山(9/23 タランテッラ) 津田(9/24 諏訪内/10/8) 佐藤(9/27)

チケットのお問合せは……ミュージズチケットカウンター

04-2998-7777

●窓口・電話予約10:00~18:00 ※休館日を除く

●インターネット予約

所沢 ミューズ

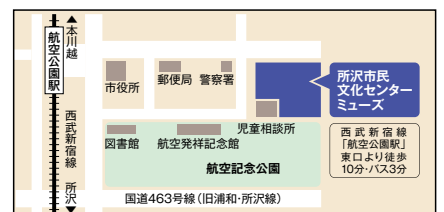
検索



クラシック・ポピュラー・演劇・寄席など多彩で魅力溢れる公演を開催しております!

詳細はミュージズホームページでご確認ください。

<https://www.muse-tokorozawa.or.jp>



*公演情報は2023年10月25日現在のものです。曲目・出演者の変更やチケットが売切れとなる場合がございますので、ご了承ください。

今回のインフォ・マートは2024年1月15日発行予定です。どうぞお楽しみに。